

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな)	やまもと・やすし 山本 泰		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いちのかわ・やすたか 市野川容孝	東京大学大学院総合文化研究科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
国際社会科学特殊研究Ⅲ	TDKx-070101-0	4名	

I. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、現在の日本に存在するさまざまな社会運動の中から、受講学生が自らの問題関心にあわせて、調査対象を選定し、かつ対象となる具体的な運動にボランティア等として一定期間、参加しながら、関係者に対する聞き取り調査をおこなった。密度の濃淡はあれ、学生たちは各々、参与観察を具体的に実践したと言える。</p>	
II. 調査の企画・設計（デザイン）	
<p>1. 調査のテーマ／領域： 「社会運動の現在」。(1) 住民運動（下北沢再開発をめぐる問題）、(2) 在日外国人の現況、(3) ゲイ運動、(4) 若者たちと労働。</p>	
<p>2. 調査の内容／概要： 上記の4つの項目について、参与観察にもとづくインタビュー調査を実施した。加えて、関連するドキュメントおよび統計データ等の資料を収集・整理した。</p>	
<p>3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）： 各種の社会運動について、受講学生が自ら調査対象を選定し、当該の社会運動にボランティア等の形で一定期間、関与しながら、関係者に聞き取り調査（質問票を用いたアンケート調査を含む）をおこなった。</p>	
<p>4. 主な調査項目： 各々の社会運動の成り立ち、当事者たちの意識、そこでの争点、等。</p>	
III. データ収集の方法と結果	
<p>5. データ収集（現地調査）の方法： 参与観察にもとづくインタビュー調査（質問票を用いた小規模のアンケート調査を含む）。</p>	
<p>6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2007年10月から2008年2月まで。東京近郊各所。計14名（うち本授業履修者4名）。</p>	
<p>7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）： 参与観察ならではの密度の高いデータがえられた。上記（2）では、質問票を用いたアンケートもおこなった（回答数19）。</p>	
IV. データ分析の方法と結果	
<p>8. データ分析／解釈の方法： それぞれの社会運動について、参与観察ならではの密度の高い情報がえられたが、同時に、さまざまなドキュメント資料を参照しながら、インタビュー結果の意味を外在的にも分析した。</p>	
<p>9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）： 詳細は下記報告書を参照されたいが、調査対象となったいずれの社会運動においても、当事者内部にさまざまな見解の相違があることが、参与観察ならではのインタビュー調査によって明らかになった。</p>	
<p>10. 報告書刊行の予定と概要： 東京大学大学院総合文化研究科／教養学部・相関社会科学研究室『社会運動の現在』（印刷準備中、全194頁）として刊行予定。</p>	

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。